若宮神社 改築記念

（平成26年9月9日改訂）

明理川庄屋始祖一色家
若宮神社

平成の大普請　落成
平成十八年二月二十六日

出席者（当主のみ記載）
本家　一色　尋匡
一色　春忠
一色　勇
一色　秋俊
一色　繁隆
一色　政仁
一色　正信
一色　恒文
一色　磯一
一色　昇二
一色　静夫
一色　實

本家屋敷内の若宮神社

近年、旧暦の6月13日に執り行われていた先祖祭は、最寄りの日曜日に開催。当日は御奉納帖に出席者名記載。

本家当主の玉串奉奠

清和源氏義家流足利支流一色氏　先祖祭　旧暦六月十三日

明理川庄屋始祖一色家系図

【長福寺過去帳】

明理川庄屋始祖
円通庵開基
①明理川庄屋新兵衛　一色重好
五男　戻る
壬生川庄屋　一色重好
1707年没
②明理川庄屋喜兵衛　後に壬生川庄屋五左衛門
次男　嫡男　重之
1730年没
壬生川庄屋与五左衛門　範江
1779年没
若宮神社を参拝後、昼夕食を共にして先祖を偲び親交を深めるものと伝承
平成十八年七月吉祥日　圓福寺住職石丸祖岳編纂
平成十八年九月三日　先祖祭り一同にて・追記
平成二十六年九月九日　円通庵と長福寺過去帳にて・改訂

【本源寺過去帳】

③明理川庄屋新兵衛　重持
1733年没
養子　山路孫兵衛男
④明理川庄屋新兵衛　新三郎
1762年没
⑤明理川庄屋新兵衛　新三郎
1779年没
大蔵（福成寺庄屋）
周平（円通庵が墓所）

【圓福寺過去帳】

三津屋傍系初代
七右衛門
1699年没
休蔵
1726年没
七左衛門
1754年没
久助の父
1700年没
久助
1761年没
与三右衛門
1783年没
大三郎
1783年没
尚右衛門
松左衛門
万太郎
1847年没
与次右衛門（竹松）
1849年没
1819年没
条蔵
1872年没
政之助
丈策
1809年没
友右衛門
1800年没
佐太郎
徳治
辰蔵（辰次）
嘉吉
多三郎
又太郎
慶次
幸助
磯造
廣助
猶助
筆太郎
浅吉
甚太郎
菊治
モン
和三郎
忠平
辰躬
磯一
品吉
新平
岡蔵
菊市
徹臣
玉之助
（養子縁組）（磯一の妻百代は一色家血縁）
磯一
力
政人
弘正
英一
敏郎（松山市御宝町）
清春
高和（西条市喜多台・茨ノ木）
正明（西条市丹原町高知）
（猶助・徹臣共に元今治市議会議員・今治市別宮町）
（菅姓・元丹原町議会議員・西条市丹原町来見）
春忠
秋俊
繁隆
敬二
正信
佳和
勇
進
義照（西条市周布）
興七郎（官五郎）
1918年没
徳太郎
丈作
耕平
元壬生川町長
史蹟耕平郎跡
隆助
アイ子
コイチ
久市
馨
功
常一
才（北九州市戸畑区）
義一
貞昌（広島市）
栄一
政志（広島市）
寿男（長尾姓・京都市左京区）
八重子（一色家血縁）
實
昇二
静夫
一富（養子縁組）
登美子（四女）
採
明
清太郎
儀三郎
態太
（杉野姓・西条市国安）
サト
1928年没
ヒサエ
2002年没
恒文
尋匡
政仁
耕次
佐太郎（桑村姓・元丹原町議会議員・西条市丹原町古田）
重太郎
1968年没（西条市氷見から）
繁作
房太郎
節太郎
良介
知希（西条市氷見）（娘・木田生子の実子を養子縁組）
信一
健一
圭介
洋平
友正
丈太郎
節太郎
耕三

本家の武具は、昭和30年代に全て古物商へ譲渡した。

まるにふたつびき
丸に二つ引き

源氏初代

第五十六代清和天皇
880年没
第六王子
貞純親王
916年没
（経基王）源経基
957年没
源満仲
997年没
源満仲像兵庫県川西市（摂津）
三男
頼信
1060年没
源頼信
頼義
1082年没
（八幡太郎義家）
義家
1105年没
（足利式部大夫）
義国
1155年没
（源義康）足利義康
1157年没
義兼
1199年没
三男
義氏
1254年没
泰氏
1270年没

足利氏初代

まるにふたつびき
丸に二つ引き

一色氏初代

左京大夫（足利公深）
七男　一色公深
1319年没
宮内少輔・九州探題
頼行
範氏
信氏
1369年没
四職
三河・若狭守護大名
直氏
範光
範房
1388年没
三河・若狭守護大名
詮光
詮範
1406年没
初代丹後守護
満範
範貞
1409年没
二代丹後守護（義範）
義貫
持信
1440年没
兵部少輔
直氏
義遠
正照
兵部少輔
義長
式部少輔
直長
九代丹後守護
一色左京大夫義道
義辰
義員
宮内少輔
昭辰
1579年没
長福寺過去帳
治兵衛
義定
範之
三男（後の重之）
1582年没
1639年没
重直
重次
1627年没
三津屋村大庄屋
一色新兵衛
重明
1658年没

1611年没
豫州重之流一色氏始祖　一色右馬三郎重之

天正８年、戦国武将一色右馬三郎範之（後の重之）は丹後国宮津城の落城前に外祖父である河野通泰との縁により、子の重直・重次（６歳双子）、家臣赤澤某、伊藤嶋之助、佐和小十郎等十余名を連れ、再起をかけて伊予国へ来た。当時新居郡の旗頭であった石川氏の食客となり新居郡萩生村に居住。そして、代官となっていた重之は命により古城に居た北条の地頭越智勘左衛門を討って移り住み、そこを「三ツ屋」と称した。

先祖祭御奉納帖（百五拾余年の名簿）

出席者（落成式典後）